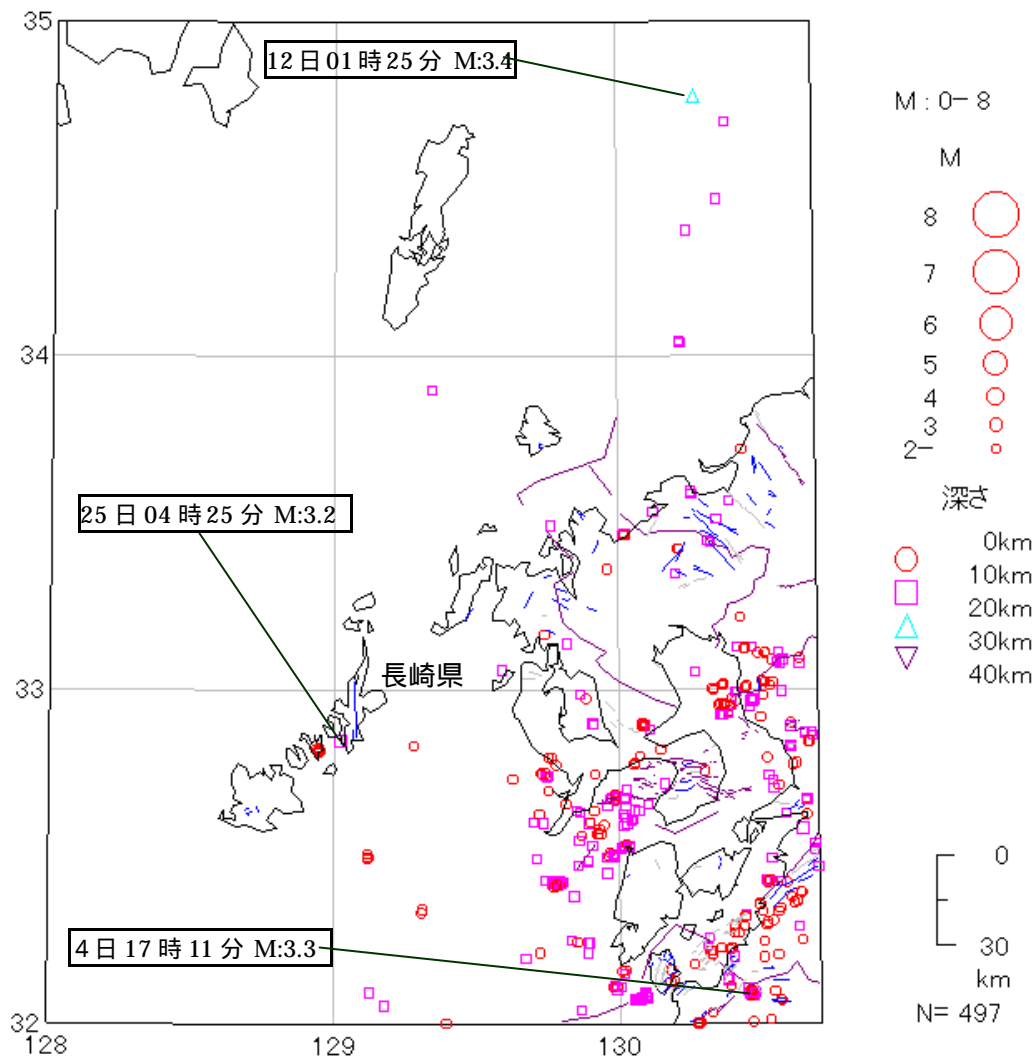


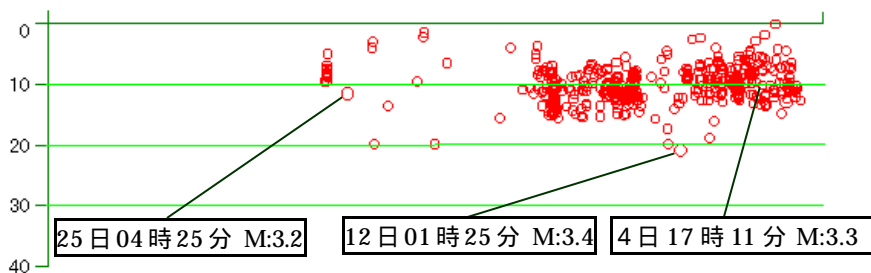
# 長崎県の地震活動概況 ( 2003 年 8 月 )

平成 1 5 年 9 月 8 日  
長崎海洋気象台

**震央分布図 ( 2003 年 8 月 1 日 ~ 31 日、深さ: 40km 以浅、総数: 497 )**  
長崎県とその周辺で 8 月に発生した地震の震央を示した図です。地震の規模(マグニチュード、以下 M)は記号の大きさで、震源の深さは記号と色で表しています。



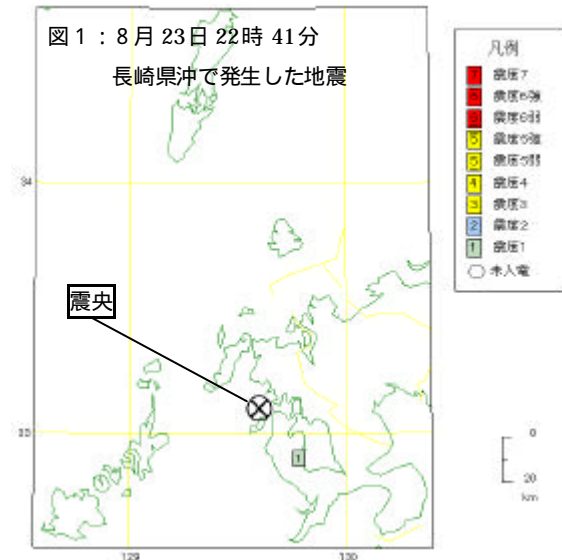
**断面図 ( 2003 年 8 月 1 日 ~ 31 日 深さ 40 km 以浅 )**  
震央分布図を南の方から見た断面図です。



### 地震活動の概況 (2003年8月)

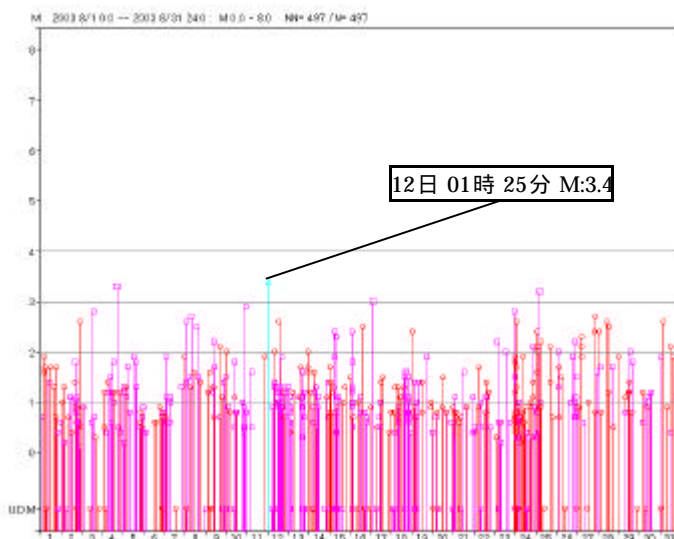
8月に長崎県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回でした(7月はなし。今年計:8回)。

23日22時41分に長崎県沖で発生した地震[M:2.8、深さ:16km]により琴海町で震度1を(図1)、また、24日01時06分に長崎県南西部で発生した地震[M:2.6、深さ:10km]により多良見町で震度1を(図2)、25日04時25分に五島列島近海で発生した地震[M:3.2、深さ:12km]により有川町で震度1を(図3)、それぞれ観測しました。



震央分布図(P.1/4)で示した長崎県とその周辺で、震源決定された地震は497回(前月は343回)そのうちの最大の地震は、12日01時25分に山口県北西沖で発生した地震[M:3.4 深さ:21km]でした(図4)。

震源決定された地震の震央別の発生回数は、長崎県南西部:35、長崎県北部:4、長崎県沖:16、橋湾:30、長崎県島原半島地方:2、



天草灘:129、有明海:29、対馬近海:0、五島列島近海:20、熊本県天草芦北地方:36などとなり、前月との比較では天草灘での増加が目立っています。

図4: 規模(M)別の地震活動経過図  
2003年8月1日~31日

有感地震表 (長崎県内の震度観測点で震度 1以上を観測した地震 )

2003年 8月 1日 ~ 2003年 8月 31日

震源時 震度	緯度 観測点名	経度	深さ(km)	規模(M)	震央地名
23日22時41分59秒 1	33° 03.6 N 琴海町長浦	129° 35.4 E	16	2.8	長崎県沖
24日01時06分05秒 1	32° 53.7 N 多良見町化屋*	130° 05.5 E	10	2.6	長崎県南西部
25日04時25分58秒 1	32° 50.9 N 有川町有川*	129° 01.5 E	12	3.2	五島列島近海

注) 1 震源要素(緯度・経度・深さM)は、暫定値であり データは後日変更されることがあります。

2 \* を付した地点は、県の震度観測点です。

**火山概況 (2003年 8月)**

(火山名：雲仙岳) 火山活動に大きな変化は認められず、引き続き静かな状態でした。

噴煙は白色・ごく少量、噴煙高度の最高は5日、7日の60m(6月:30m)で、特に異常は認められませんでした。

A型地震を5回観測(7月:5回)、地震の震源は平成新山付近でした。

B型地震、火山性微動及び落石震動の観測はありませんでした。

8月の火山性地震、微動等の観測回数は下表のとおりです。

**火山性地震、火山性微動、火砕流と思われる震動波形及び落石震動の観測回数**

8月	上旬	中旬	下旬	月合計	前月
火山性地震(有感を含む)	1	1	3	5	5
火山性微動	0	0	0	0	0
火砕流と思われる震動波形	0	0	0	0	0
落石震動	0	0	0	0	5

雲仙岳に設置している地震計で観測された回数です。(福岡管区气象台)

## 長崎県に被害を及ぼした主な地震について

今号では、過去、長崎県に被害を及ぼした主な地震について概観します。

長崎県に被害を及ぼす地震は、主として陸域の浅い（ほとんどが深さ約20km以浅）地震です。

表1は、長崎県とその周辺で発生した主な被害地震です。

浅い地震被害では、1700年の壱岐・対馬付近の地震（M:7）、1792年の島原半島の地震（M:6.4）、1922年の島原半島の地震（M:6.9、M:6.5）などがあります。

なかでも、1922年12月8日の島原半島の地震は、01時50分（M:6.9）と11時02分（M:6.5）と約10時間足らずの間に相次いで発生するという陸域の浅い地震でした。この地震の震源域はいずれも千々石湾（現在の橘湾）付近と考えられ（図1）最初の地震では島原半島南部、特に北有馬村（当時）で著しい被害となりました。一方、後の地震では島原半島西部の小浜村（当時）付近で大きな被害が出ました。これら2つの地震により死者26名、負傷者39名、家屋全壊などの被害が生じました。この他、熊本県の天草や八代でも石碑の倒壊などの被害が出ました。この地震の余震は図2のとおり順調に減少していきました。

なお、島原半島周辺では、1792年5月21日にM:6.4の地震が発生して眉山（当時は前山）の一部が崩壊し、有明海沿岸に甚大な津波被害をもたらしました。その津波の高さは最大約9mであったと推定されています。この津波の死者は15,000名、家屋流出5,000棟以上に及び“島原大変肥後迷惑”と呼ばれています。

この災害は、火山災害としては有史以来わが国でもっとも犠牲者の多かった災害となりました。

西暦（和暦）	地域（名称）	M	主な被害
1700. 4. 15 （元禄13）	壱岐・対馬	7	壱岐・対馬で被害。家屋全壊89。
1707. 10. 28 （宝永4）	（宝永地震）	8.4	（死者20,000、家屋全壊60,000、同流失20,000。）
1792. 5. 21 （寛政4）	雲仙岳	6.4	前山が崩れ、崩土が島原湾に入り津波を生じた。島原領で死者10,139、負傷者601、家屋流失3,347。
1854. 12. 24 （安政1）	（安政南海地震）	8.4	（東海地震の32時間後に発生。二つの地震の被害や、津波被害との区別困難。）
1922. 12. 8 （大正11）	千々石湾	6.9 6.5	島原半島南部等で被害。死者26、負傷者39、住家全壊195。

表1：長崎県とその周辺で発生した主な被害地震

主な被害は県内の被害。県内の被害が特定できない場合は( )内に全体の被害を記述。

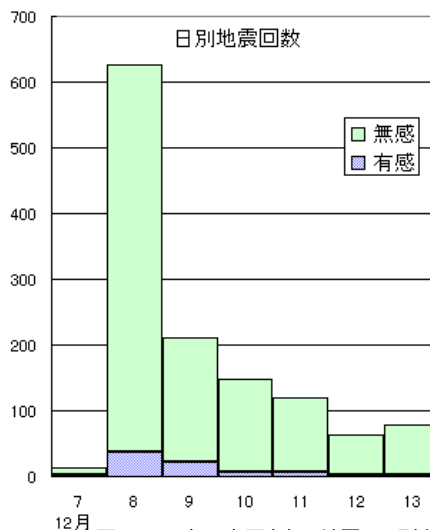
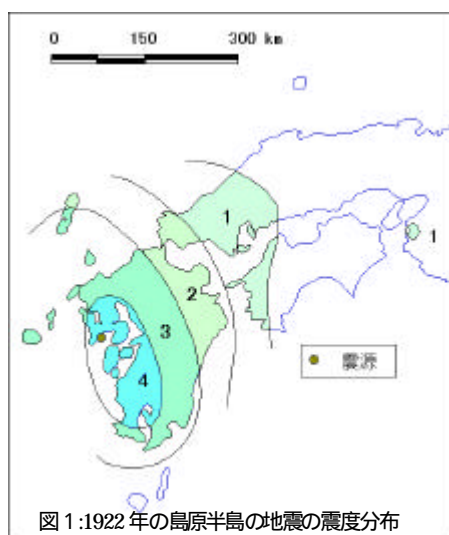


図2:1922年の島原半島の地震の日別余震回数（出典：『日本の地震活動』）